

敦賀原発2号機原子炉直下に活断層が存在 規制委員会も「活断層を否定できない」として不許可

原子力規制委員会は7月26日に審査会合を開き、日本原電の敦賀原発2号機の直下に活断層があることを否定出来ないとして、「新規制基準」に適合しないと結論した。敦賀原発の東側200mには活断層が存在し、分岐して2号機直下を通っている「K断層」について、規制委の有識者会議は「活断層」と指摘して来たが、日本原電は「直下までは延びていない」と主張してきた。今回、規制委は、「原電の主張には科学的、技術的な根拠が乏しい」と指摘して、8月2日には「不許可とする手続き」に入ることを決定した。

10月以降に正式に不許可の決定へ

日本原電村松社長は1年以上の追加調査を行う計画を説明したが、規制委は「具体性もなく、見通しもない」として却下し、「不適合審査書」を決定し、意見公募の上で10月以降に正式決定する。

日本原電は東海、敦賀を廃炉にすべきだ

日本原電は東海原発2号と、敦賀原発2号を所有しているが再稼働できていない。ところが関電など電力大手は維持費として毎年900億円を支払っている。老朽炉で危険な東海2号、稼働不適合な敦賀2号は直ちに廃炉とすべきである。電力を生んでいない無駄な「維持費」は支払うべきではない。廃炉費用は消費者でなく日本原電の株主である電力資本と金融資本が負担すべきである。

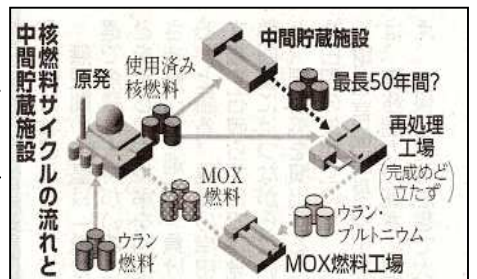
むつ中間貯蔵施設の稼働

経産相の空約束で無理やり認定

青森県むつ市に東京電力と日本原電の子会社「リサイクル燃料貯蔵(RFS)」が「中間貯蔵施設」を建設した。中間貯蔵と言いながら、最終貯蔵施設の建設のメドはなく、予定されていた六ヶ所村の再処理工場は完成のメドはない。地域からこれでは最終処理場になるとの危惧に対して、23日に斉藤経産相は、50年以内に再処理工場に搬出することを政府の「次期エネルギー基本計画」に具体化すると「空約束」を行い、それを受けて



稼働は認可された。50年後には生きていない老人たちが、今の利益のために、地域の環境と安全を売り飛ばしている。



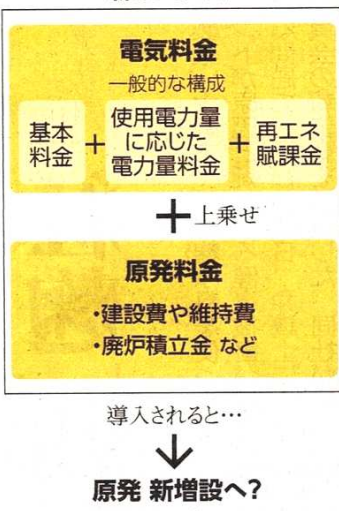
大阪の戦争展報告集が刊行

4月27-28日に開かれた「アジアから問われる日本の戦争」展の報告集。猿田佐世さんの講演会、映画会と小講演会等が開催された。そして10会場で30団体が参加した展示会。戦争展は延べ総数800人の参加で開催された。



原発の新設や廃炉費用を電気料金に上乗せする！？！

原発の新増設費用をまかなう
新しいしくみ



朝日新聞(7/24)によると、原発の建設費は安全対策費の増大等で高騰し、電力会社単独では建設出来ない。建設費用の増加の可能性も高い。稼働中原発も、使用済み核燃料の100年以上の保管費用や、廃炉費用を考えると経済的には成り立っていない。政府はそれらの費用を「原発料金」として電気料金に上乗せして、市民に負担させようとしている。

関電や東電のような大手電力会社は、以前は地域独占により高額な電気料金が保証され、必要に応じて値上げをしてきた。

2000年から「電力」の自由化が始まり、太陽光発電、風力発電など再生可能エネルギーが登場し、当初は発電単価も高かったのが、今では太陽光発電のほうが火力発電や原発より安くな

っている。

本来ならば、コストに合わなくなった発電システムは撤退し、新システムを推進すべきである。ところが原発で利益を得て来た電力会社、設備会社は、経済的に破綻した原発を無理矢理維持しようとしている。

その裏には、原発の当初から疑われていた、「原子力兵器」開発の「隠れ蓑」の疑惑が疑われる。

被爆79周年原水爆禁止世界大会 2024



今年の原水爆禁止世界大会は7月28日に福島大会、8月4～6日に広島大会が、7～9日まで長崎大会が開催。
①被爆者援護・連帯・核廃絶運動の次世代への継承、②核兵器禁止条約と核不拡散条約、③脱原発社会の実現を中心課題として開催される。

7月28日福島大会を開催



大会には650人が参加し、政府の原発再稼働方針に反対し、「福島の悲劇を繰り返すな」のアピールを採択した。能登半島地震で原子力の危険性が再認識！

原水爆禁止2024年世界大会



原水協系の世界大会も8月に広島・長崎で開催される。大会は「被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を一人類と地球

の未来のために」をテーマに開催。各集会には世界各国からの参加者が報告する。

パレスチナ各勢力の「北京宣言」 ファタハやハマス等 14 勢力が和解

北京で中国の王毅外交部長の仲介で、ガザ地域を統治するイスラム組織ハマスとパレスチナ自治政府を主導するPLO主流派ファタハ、その他の12勢力が参加して7月21日から3日間の会議が開かれた。この会議にはエジプト、アルジェリア、サウジアラビア、カタール、ヨルダン、シリア、レバノン、ロシア、トルコの特使や代表も参加した。



「北京宣言」の内容は次のとおり。ガザの戦後統治は暫定的な統一政府を形成し、国連決議に従ってパレスチナの真の独立国家を実現する。そのために、持続可能な停戦の早期実現と人道支援とアクセスの確保。パレスチナ人がパレスチナを統治する大原則を堅持し、暫定的な「国民統一政府」の樹立。パレスチナを国連に正式加盟させ、「二国家解決」の実現。

これらの課題の実現には、米国やイスラエルの妨害など多くの困難が予想されるが、「北京宣言」はパレスチナとイスラム諸国、世界の平和勢力の結束を強めるものである。

「Yahoo ニュース(7/25)」、「長周新聞(7/26)」を参照

再び、岸田文雄首相に対して

日本学術会議の独立性および自主性の尊重と擁護を求める声明

雑誌『地平』8月号より

吉川弘之(17, 18 期会長)

黒川 清(19, 20 期会長)

広渡清吾(21 期会長)／大西 隆(22, 23 期会長)

山極壽一(24 期会長)／梶田隆章(25 期会長)

私たちは、日本学術会議会長の職を務めた者として、現在、「日本学術公議の在り方」の見直しを進める政府の措置に対して、三四半世紀を超えて活動する日本学術会議の社会的役割を、根本において危うくするという懸念を表明せざるをえない。日本学術会議は、1948年日本学術会議法によって設立され、学問の自由に基ずく学術の発展および学術の成果の社会における利用を図るべく、世界の科学者と連携しながら、日本の科学者の代表機関として、学術の見地から総合的、俯瞰的に、そして独立に、社会と政府に科学的助言を行うことに努め、そのため自主的に会員選考を行う科学者組織であることを堅持して活動を続けてきた。

今、世界が直面する人類社会の自然的条件および共生条件の困難さは、いっそう大きく学術の役割を要請している。この状況の下、日本学術会議は広く社会と科学者との対話を通じて自主的な改革に邁進することが必要であり、それゆえ私たちは、岸田文

雄首相に対して、日本学術会議について政府主導の見直しをあらため、日本学術会議の独立性および自主性を尊重し、擁護することを要望する。

(要望内容は大幅に省略。原文をお読み下さい)

大臣決定の「法人化」案は、「政府から独立するための法人化」という名目の下、撤回案よりはるかに深く、日本学術会議の独立性および自主性に手をつけるものである。「法人化」案は、なによりも、運営に対する外部者の関与を広く導入する。会員選考について意見を述べる外部有識者からなる[選考助言委員会]、また、運営に関する重要事項について意見を述べる過半数を外部有識者とする「運営助言委員会」を設置。「選考助言委員会」は、撤回案と同じものである。さらに加えて、政府が任命する財政・業務監査を行う監事を置き、仕上げとして政府任命の外部有識者からなる「日本学術会議評価委員会」が、日本学術会議の活動を中期的な計画期間ごとに総合的に評価するとされる。

日本学術会議が75年の歴史を踏まえていっそうの役制を果たすことができるよう、日本学術会議の独立性および自主性の尊重と擁護を心から要望します

案内 日本戦没学生記念会(わだつみ会) 8月18日 平和集会
「岸田政権の大軍拡と戦争準備にNO！」 池田 五律

日時:2024年8月18日(日) 14:00~16:30(13:30 開場)

主催:日本戦没学生記念会(わだつみ会) 協賛:不戦兵士を語り継ぐ会

アメリカの言いなり論や、外務省に言われてイヤイヤ防衛省・自衛隊は動いているといった見方が根強い。だが、この「日米英同盟・対中ロ対決」路線は、国家安全保障官僚どもが主体的に選択したものだ。「どうして不合理なことを防衛官僚や高級自衛隊幹部は進めるのか」という質問を受けることもある。どうして彼らを合理的な善玉だと想定するのが、不思議だ。

アジア太平洋戦争で明らかのように、非合理的な選択行動をするのが軍人なのだ。現代版の軍事官僚・国家安全保障官僚も同じだ。「2027年台湾危機説」を振りまきながら、概ね10年を念頭に置いた国家安全保障戦略で対処態勢を整えると言うことからして、矛盾だらけ。非合理的な嘘を平気で言う。権限、利権の拡大しか考えていない。

彼らの次の最大目標は、「省庁横断的総合防衛体制」の構築などの国家改造だ。「ウクライナ戦争下の国家改造」・・・。「防衛三文書」は、そのための屈理屈だ。国家安全保障会議を問題化し損なった轍を踏まぬよう、国家改造計画と対決することが必要だ(「現代の理論」NO34より)

場所:全水道会館 5階中会議室 (JR 水道橋駅)

講演:「岸田政権の大軍拡と戦争準備にNO！」

講師:池田 五律 (戦争に協力しない!させない!練馬アクション)

参加費: 一般1000円(学生500円) ZOOM参加 カンパをお願いします

ZOOM参加:ZOOMを使用しての参加をご希望される方は8月15日までに事務局アドレスに、お名前と住所をご連絡ください。

west_umi@khc.biglobe.ne.jp (永島)

◆参加申し込みされた方には、8月15日までにURLと資料を送ります。

◆ZOOM参加される方からの、わだつみ会へのカンパは大歓迎です。

郵便振替口座:00170-0-161293 日本戦没学生記念会

◆ZOOM参加を登録されると、「後日配信」を聴取できます

紹介 日本戦没学生記念会(わだつみ会)機関誌

「わだつみのこえ」 No160 (発行:8月9日)

日本戦没学生記念会の機関誌「わだつみのこえ」は1959年の創刊以来65年、160号の発行となった。今号には、金城美幸さんにガザジェノサイドと新植民地主義問題、高田健さんには改憲と軍拡問題を寄稿いただいた。そして戦前の国定教科書と変わらない教科書が検定合格される中で、教育現場での深刻な現状と闘いの課題を報告していただいた。4月に開催されたわだつみ会の総会の報告も掲載されている。



【2023 不戦のつどい】いま、なぜ、「学徒出陣」なのか 安川寿之輔

「学徒出陣」80年の歴史的意味を考える

【特集】岸田政権の明文改憲の失敗と「戦争する国」づくり 高田 健

【特集】ガザ・ジェノサイドが照らし出すもの 金城美幸

—世界は植民地主義を乗り越えられるのか

【特集 教育問題】「子どもたちによりよい教科書を」 伊賀正浩

『君が代』強制は子どもの権利条約違反!」 松田幹雄

【わだつみ会連続講座】

第7回「ヒロポンと特攻 太平洋戦争の日本軍」 相可文代

第8回「東京空襲の諸問題」 山辺昌彦

棄てられた「皇軍」の虐殺とバナバ民族の悲劇(下) 北口 学

【わだつみ会 2024-25 総会の報告】

【関西わだつみ会の活動報告】大坂、堺、宝塚の戦争展に参加

定価1000円+税

米軍 日本で3ヶ所目のオスプレイ配備

(朝日 7/17) 防衛省は15日に山口県に対して、米軍岩国基地にMV22 オスプレイが年内に配備されると伝達。またF35Cステルス戦闘機も配備する。昨年11月の墜落事故後に飛行停止とされたが、事故原因も明らかにされないまま今年3月には解除。地元の岩国市長は市民の不安もあり、「総合的に判断」としているが、米軍は従来の対応を強行する可能性が大である。

日本政府主導の太平洋・島サミット

(朝日 6/20) 太平洋地域の18の島国・地域と日本による国際会議が、16日から東京で開催され、18日に首脳宣言と共同行動計画を採択した。日本政府は安倍政権以来、「自由で開かれたインド太平洋」を課題に、影響力を拡大している中国に対抗して、旧植民地支配国であった米国や豪州とともに関与を強めようとしている。

自衛隊施設で「大東亜戦争」賛美

(赤旗 7/28) 北海道旭川の自衛隊基地に併設の「北鎮記念館」では旧日本軍の「功績」を称え、侵略戦争を「大東亜戦争」と美化している。また少年飛行兵も「圧倒的に強かった」とだけ強調され、特攻攻撃を強いたことの反省はない。そして駐屯地隊員一同名義で「命より大事な『美しい日本』を守るために、先輩たちも命を惜しげもなく捧げた」と飾られている。自衛隊内部での「皇国史観教育」を許してはならない。

自衛隊の指揮権を米軍に献上する日本

(朝日 7/29) 7月28日の日米外務・防衛担当閣僚会合(2+2)では、米側がハワイの「インド太平洋軍司令部」が握っていた在日米軍の指揮権を、日本に新設する「統合軍司令部」に付与し、自衛隊が立ち上げる「統合作戦司令部」と一体化しての運用が合意された。

オバマ政権が打ち出した「核なき世界」構想に対抗し、日本政府が米政府に要請して「核の傘」を強調する「拡大抑止協議」が行われてきたが、それを今回は閣僚級に強化して「拡大抑止」の協議が行われた。そして米国の「核の傘」の重要性を再確認した。

日米豪印の【QUAD】声明／7.29

(朝日 7/30) 日米両国は28日の「2+2 会合」に続き、豪・印を加えた「QUAD外相会議」で、「自由で開かれたインド太平洋」の実現を強調した。しかし、共同声明では中国、ロシアへの名指しの批判には合意できなかった。

報告 7/18 ピースおおさか前でスタンディング



ピースおおさかが展示を改悪し、加害と戦争の悲惨さを削除したことに抗議して、抗議のスタンディングを続けている。生徒は受取るのに教員が妨害する悲しい現実！

報告 7/26 原発いらナイト宝塚 136回



「原発いらナイト in 宝塚」の136回目は、7月26日5時から宝塚駅連絡橋で開催！サキソフオーン演奏の下、9人で150枚のチラシを配付。学生の受取も良く、長崎被爆2世の方の激励も受けた。

報告 8/2 関西ガザ緊急アクション



関西ガザ緊急アクションと学生中心のKYMCの共同企画で2日に集会が呼びかけられた。若い学生の参加も多く、約150人で御堂筋をナンバまでデモ行進した。

報告 8/3-4 「塚 平和のための戦争展」に参加



塚の戦争展では、子どもと親で300人以上が参加した音楽会などが地域の協力で開催された。関西わだつみ会は今年も展示に参加した。「『学徒出陣』80周年声明」を中心に10枚のパネル展示が行われ、日本の戦争と徴兵制について話すことが出来た。

案内 靖国と自衛隊の間をあばく

天皇出席の全国戦没者追悼式典に反対して開かれます。
講師：辻子 実
日時：8月15日 14:00～
場所：エルおおさか南 704 号室
主催：参戦と天皇制に反対する連続行動



「守ろう平和・なくそう戦争」展 2024 in 宝塚

会場：宝塚市立西公民館 (0797-77-1200) 入場無料
阪急 今津線 小林駅下車 徒歩5分

日時：8月11日(日) 10時～18時 + ピアノコンサート
8月12日(休) 10時～16時 + 映画会「はだしのゲン」

宝塚市立西公民館 3階 セミナー室

平和コンサート・映像とピアノ
ピアノ：池辺 幸恵さん
8月11日(日) 13時30分～14時30分
3階 セミナー室

映画会「はだしのゲン」実写版
8月12日(月) 13時30分～16時00分
3階 セミナー室
映画は原爆投下直後から日本の敗戦までをリアルに描いた作品。出演：三国連太郎等

主催：守ろう平和・なくそう戦争 市民の会
連絡先：電話090-3289-8944 メール r092@layano@icloud.com (外部)

「守ろう平和・なくそう戦争」展 in 宝塚

会場：宝塚市立西公民館 (0797-77-1200) 入場無料
阪急 今津線 小林駅下車 徒歩5分
日時：8月11日(日) 10時～18時 + ピアノコンサート
8月12日(休) 10時～16時 + 映画会「はだしのゲン」

宝塚市内では、反原発、反戦平和、戦争責任などの運動や、音楽サークル、映画サークルなどの各種団体の活動が活発に行われています。今回、「守ろう平和・なくそう戦争 市民の会」の呼びかけで、いろいろの分野から14団体が参加して「戦争展」を開催することになりました。西公民館で約80枚のパネルで、2日間にわたって展示が行われます。8月11日の13:30から、平和コンサート(ピアノ:池辺幸恵さん)が開催。12日の13:30には映画「はだしのゲン」(三国連太郎出演)も上映。「わだつみ会」や「不戦兵士を語り継ぐ会」なども参加します。

2024年 わだつみ会 8・15集会のご案内

岸田政権の大軍拡と戦争準備にNO！

日時：2024年8月18日（日）
14：00～16：30（13：30開場）

主催：日本戦没学生記念会（わだつみ会） 協賛：不戦兵士を語り継ぐ会

アメリカの言いなり論や、外務省に言われてイヤイヤ防衛省・自衛隊は動いているといった見方が根強い。だが、この「日米英同盟・対中対決」路線は、国家安全保障官僚どもが主体的に選択したものだ。「どうして不合理なことを防衛官僚や高級自衛隊幹部は進めるのか」という質問を受けることもある。どうして彼らを合理的な善玉だと想定するのかが、不思議だ。

アジア太平洋戦争で明らかなように、非合理的な選択行動をするのが軍人なのだ。現代版の軍事官僚・国家安全保障官僚も同じだ。「2027年台湾危機説」を振りまきながら、概ね10年を念頭に置いた国家安全保障戦略で対処態勢を整えるということからして、矛盾だらけ。非合理的な嘘を平気で言う。権限、利権の拡大しか考えていない。

彼らの次の最大目標は、「省庁横断的総合防衛体制」の構築などの国家改造だ。「ウクライナ戦争下の国家改造」・・・。「防衛三文書」は、そのための屁理屈だ。国家安全保障会議を問題化した損なった轍を踏まぬよう、国家改造計画と対決することが必要だ（「現代の理論」NO34より）

場所：全水道会館 5階中会議室（JR 水道橋駅）

講演：「岸田政権の大軍拡と戦争準備にNO！」

講師：池田 五律 さん（戦争に協力しない！させない！練馬アクション）

参加費：一般1000円（学生500円） ZOOM参加 カンパをお願いします

ZOOM参加: ZOOMを使用しての参加をご希望される方は8月15日までに事務局アドレスに、お名前と住所をご連絡ください。

west_umi@khc.biglobe.ne.jp（永島）

- ◆参加申し込みされた方には、8月15日までにURLと資料を送ります。
- ◆ZOOM参加される方からの、わだつみ会へのカンパは大歓迎です。
郵便振替口座:00170-0-161293 日本戦没学生記念会
- ◆ZOOM参加を登録されると、「後日配信」を聴取できます
- ◆当日の質問は挙手による発言とし、チャットによる問合せには対応できません

講師紹介：池田 五律 さん（いけだ いつのり）

主な著作：

- 『海外派兵！自衛隊の変貌と危険な行方』（創史社 2001）
『慶応小論文で鍛えるロジカルシンキング』（翔泳社 2014）

「戦争に協力しない！させない！練馬アクション」などの市民運動に参加され、首都圏での反戦反軍拡運動をリードされている



日本戦没学生記念会（わだつみ会）

連絡先: 事務局長 永島 昇 電話 090-3161-8677

〈大討論〉民主主義の再起動 基地と原発のない国にするために

第二次安倍政権以降の自公政治は、民主主義の制度を利用して民主主義の根幹を破壊し、機能停止に追い込むという倒錯した政治でした。そうした政治の結果、東アジアの軍事的緊張は高まり、普天間基地は辺野古へ移設され、日本中の原発が再稼働されようとしています。

この破壊されたままの民主主義を再び機能させるために、私たちは何をすべきでしょうか。その答えについて考えるために、反基地、反原発など、それぞれの現場で活動し、現場を報道する方々に多様な見解を語っていただきます。そうした意見の相互交換をもとに、希望を共有できるような討論会となるよう、多くの方々の参加を期待しています。

発題者（五十音順）

菅井益郎（国学院大学名誉教授、反公害・反原発運動）

半田 滋（防衛ジャーナリスト）

久道瑛未（弁護士、元 SEALDs TOHOKU）

菱山南帆子（「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」共同代表）

森 啓輔（専修大学准教授、社会運動論）

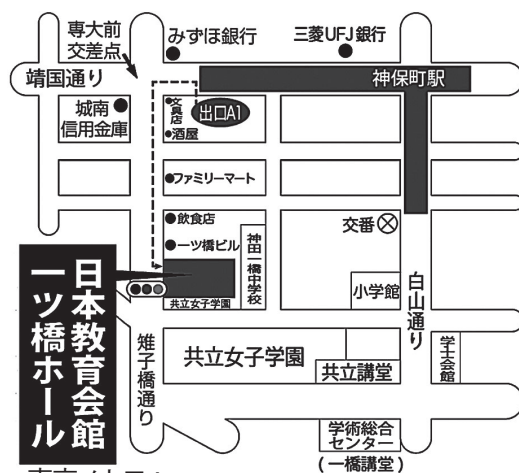
司会・進行

越智敏夫（市民文化フォーラム事務局長）

日時 **2024年 8月15日(木)**
13:30~16:30（13時開場）

場所 **日本教育会館7階 中会議室**
〈東京都千代田区一ツ橋2-6-2〉

参加費 **一般1000円／大学生500円**
高校生以下無料



東京メトロ：

新宿線・半蔵門線・三田線⇒神保町駅（A1出口）徒歩3分／東西線⇒竹橋駅（北の丸公園側出口）徒歩5分

市民文化フォーラム

千代田区神田神保町2-20 第二富士ビル 電話045-317-3325 <http://ccforumorg.seesaa.net/>